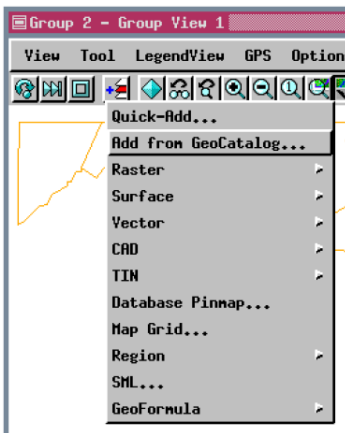
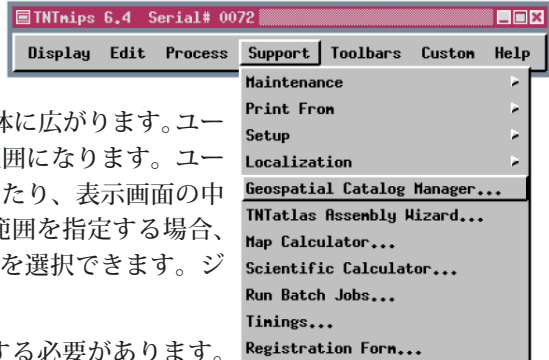


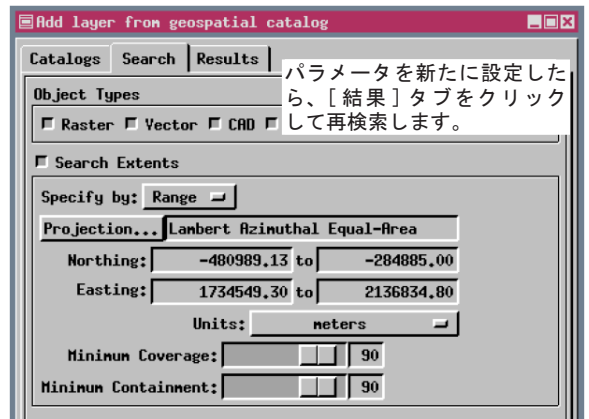
# ジオカタログの紹介

TNTmips のジオカタログ (GeoCatalog) 機能を使うと、地球上の位置を指定することで何百または何千ものプロジェクトファイルからデータを選択できます。ジオカタログの機能によってプロジェクトファイルの閲覧が1度に1つのプロジェクトファイルからドライブ全体に広がります。ユーザが過去に表示した地理データの範囲が初期のジオカタログ検索の範囲になります。ユーザはこの矩形範囲を変えたり、不規則な範囲を定義する領域を選択したり、表示画面の中心や入力したポイントの座標を使うこともできます。領域を使って範囲を指定する場合、保存したリージョンやポリゴンベクタ (ベクタの一番外側の境界線) を選択できます。ジオカタログの全内容を表示することも可能です。

ジオカタログが使えるようにするには、まずジオカタログを生成する必要があります。初めに [サポート (Support)] メニューから [ジオカタログマネージャ (Geospatial Catalog Manager)] を選択し、新規ファイルを作成します。次に、ジオカタログを作成するディレクトリを選びます。このカタログは、選択したディレクトリおよびその下の全てのサブディレクトリにあるプロジェクトファイル中のジオリファレンス済みオブジェクト全てに自動で索引付けを行います。



1度ジオカタログを生成すると、表示ウィンドウを持つ任意の処理において、地理的な範囲やポイント座標を使ってオブジェクトを絞り込むことができます。表示ウィンドウの [レイヤの追加 (Add Layer)] アイコンのドロップダウンメニューから [ジオカタログから追加 (Add from GeoCatalog)] を選択します。本機能を初めて使用する場



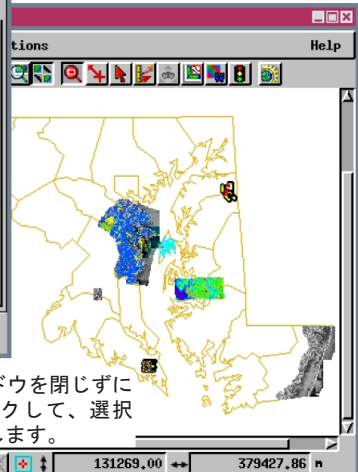
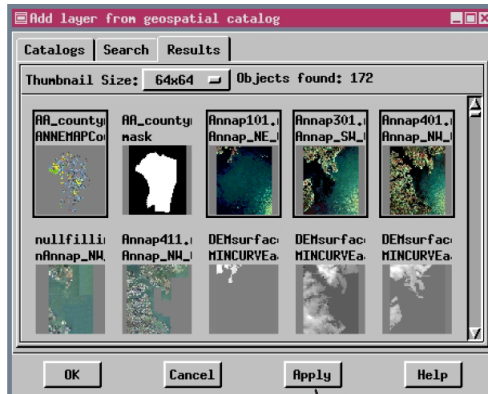
合、サーチ用のジオカタログファイルを選択するよう促されます。

選択したジオカタログファイルは記憶され、その後の処理でも使用されます。ジオカタログの追加と削除は、<ジオカタログからレイヤを追加>ウィンドウにある [カタログ (Catalog)] パネルで行います。表示しているレイヤがある場合、選択したジオカタログの中にアクティブグループの範囲に入るオブジェクトがあるかどうか検索します。これらの範囲は [サーチ範囲 (Search Extents)] パネルでサーチオプションとして [範囲 (Range)] を指定すると表示されます。レイヤを追加していない場合、<ジオカタログからレイヤを追加>ウィンドウが開き、範囲を直接入力したり、範囲を定める領域を選択したり、ポイント座標の使用したり、カタログ内の全てのオブジェクトを表示 ([サーチ範囲] トグルをオフにします) することが出来ます。

[結果 (Results)] パネルに表示されるサムネイルは、初めて表示する際に生成され、サブオブジェクトとして保存されます。プロジェクトファイルの閲覧で前に表示したサムネイルは保存済みであり、いつでも表示可能です。初めてカタログ内をスクロールする場合は、表示したことのないサムネイルを生成するため時間がかかります。表示したいオブジェクトのサムネイルをクリックします。

[ジオカタログからレイヤを追加] を選択する前に、郡オブジェクトが選ばれています。[最小サーチ範囲] スライダは検索前に0に設定されていました。

[最小サーチ範囲 (Minimum Coverage)] スライダは、オブジェクトがサーチ範囲の何%をカバーすべきかを指定します。[最小オブジェクト範囲 (Minimum Containment)] スライダは、オブジェクトの範囲の何%がサーチ範囲に入らなければならないかを指定します。



<ジオカタログ>ウィンドウを閉じずに [適用 (Apply)] をクリックして、選択したオブジェクトを追加します。